

富士吉田市商店街

(富士吉田市商業連合会)

山梨県富士吉田市

！取組のポイント

「社会貢献」「個店の魅力発信」をテーマにした持続的事業と、
時節に合ったタイムリーな事業を実施し、商店街の賑わいに貢献。

取組の背景

商店街における厳しい経営環境に直面

富士吉田商工会議所などで2013年度に実施した商圈実態調査によれば、地元購買率は73.6%と県内でも1位となっているが、大型店の利用割合が79.8%に対し一般小売店の利用割合は12.7%となっており、2001年度に行った調査(大型店の利用割合65%、一般小売店の利用割合22.8%)と比較すると、商店街における厳しい経営環境がうかがえる。

特に単会商店街においては、商店街地域の居住人口の減少による買い物客の減少に加え、後継者不足による経営者の高齢化、商店の住宅化など中心市街地の空洞化の影響が競争力の低下や魅力の低下を招いており、地域における新規開業者はあるものの廃業のペースに追いつかず、10年前と比較し店舗数は80.2%にまで減少。過去様々なイベントを行ってきたが、店主の高齢化と商店数の減少により独自イベントを実施することができない状況となっている。

こうした中、富士吉田市商業連合会では、9商店街の会長を中心とした常任理事会により各商店街の現状を踏まえ、事業を実施してきた。2003年度から若手経営者や後継者を中心とした事業研究部会を立ち上げ、地域の高校との懇談会を行うなど、若者の意見を取り入れ、さらに加盟店に対する事業のアンケート調査を実施し、各個店における事業の効果や今後の対応策についての調査分析により、現状・課題の抽出を行った。その結果、広域のかつ持続的事業の柱であり、設立以来継続してきた中元大売出しや歳末大売出しについては、2007年に廃止するなどの見直しを図ってきた。

取組の内容

持続的な事業と時節に合った事業を同時に展開

新たな持続的事業として、「社会貢献」「個店の魅力発信」をテーマに事業展開している。また、時節に合ったタイムリーな事業を実施することにより、効果的な事業展開を図っている。

具体的には、社会貢献事業「ぶちボラ」プロジェクト事業(2009年から実施)にて、事業実施店舗で買い物をする事で「ぶちボラシール」を発行。顧客にとっては、買い物により地域の子どものための「ぶちボランティア」を行えるとともに、シール30枚を台紙に貼って加盟店舗に持ち込めば300円券として使用できるというメリットがある。売上の中から富士吉田の子どものために役立つ寄付や寄贈を行うことにより、社会貢献と店舗の売上向上に寄与することを目的としている。

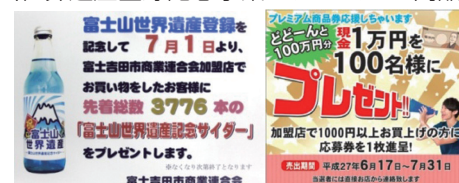
また、個店の魅力発信事業「得する街のゼミナール」事業(2013年から実施)では、商店街の各店舗の店主などが講師となりプロならではの専門的な知識やコツなどをミニ講座形式で顧客に伝えることにより、店舗の存在や特徴を知ってもらい、商店街ならびに各商店のファンづくりを推進することを目的としている。

得する街のゼミナール開催の様子



時節に対応した広域的事業の展開としては、2009～2011年にかけて商店街独自のプレミアム商品券を発行したり、2013年6月の富士山世界遺産登録記念として富士山の1合目からの登山客や商店街でお買い物をされた顧客に記念サイダーを無料で配布したりしている。また、2015年度に全国市町村によるプレミアム商品券の販売が行われた際には、大型店でも使用できるものであったことから、商店街への利用を促進するため、特典セールを実施した。

富士山世界遺産登録記念事業・プレミアム商品券事業



取組の成果

商店街の持続的な賑わいに貢献

継続的イベントや時節に合わせたイベント、単会単位の商店街ではできない広域的な事業の展開は、商店街の持続的な賑わいに貢献している。

「ぷちボラ」プロジェクト事業では、2009年度に市内小学校教育寄付金として教育委員会に21万円を寄付したほか、2010年度には当時まだ定期接種として導入されていなかった乳幼児に対するヒブワクチン接種への助成を行い、2011年度からは学校の先生からの要望により市内小学校2年生全員に学校の教材として使用する定規セットを寄贈している。

ぷちボラカードと寄贈した定規セット



実施体制

当連合会は、会長1名、副会長3名、監事2名、常任理事9名、事業研究部会の構成で組織され、月1回の常任理事会にて各事業の詳細を計画的に決定・実施している。なお、事業計画の段階で、商店街の若手経営者や後継者で組織される事業研究部会での内容検討を行っている。

また、地域の商業者の代表団体として富士吉田市や富士吉田商工会議所と連携し事業の運営における事務協力を得ている。

財源については、自主財源として加盟店からの会費のほか、地域に出店している大型店や金融機関からの賛助協力金、富士吉田市や富士吉田商工会議所からの助成金により運営している。

キーパーソンからのコメント

富士吉田市商業連合会
会長 吉沢 秀雄



持続的な事業実施のために

前会長が従来の商店会長による常任理事会とは別に、若手経営者及び後継者を各商店会から選出させ、事業研究部会を立ち上げました。

従来のイベントには華やかさはありましたが、一時的な集客に終わり、なかなか顧客獲得に結びつかなかったため、若者の意見を取り入れながら、持続的な事業の実施を検討し、華やかさを演出する時節に合ったイベントと、個店にもメリットが出るような継続的な事業とを実施することに力を入れました。

若手経営者の意見を取り入れる

近年、市内はもとより県外からも、20代から30代の若手による新規出店者が複数商店会に出店してきました。

高齢化が進む中であって、若い力が商店会に加わることは大きな励みになります。

今後は、こうした若手経営者の意見をさらに取り入れ、行政や商工会議所と連携をとりながら、若者が商店街に集うようなイベントの展開を検討するとともに、富士山世界遺産登録以降増加している外国人観光客への取組や、買い物弱者対策についても視野に入れて活動していきたいと思っています。

基本データ

所在地	山梨県富士吉田市下吉田
人口	約5万人(富士吉田市)
電話/FAX	0555-24-7111/0555-22-6851
関連URL	http://machi-zemi.jimdo.com
会員数	81名
店舗数	81店舗(買回り品小売店30、最寄品小売店29、飲食店13、サービス店9)
商店街の類型	地域型商店街
主な客層	主婦、高齢者、会社員

商店街概要

富士吉田市は富士山の北麓に位置し、海拔750mの市街地を形成する高原都市である。古くから、富士山信仰の町として栄え、御師文化の面影が今も残されている。また、明治以降、織物が近代産業として脚光を浴びて以来、政治・経済・文化の面で富士北麓の中核都市としての役割を果たしてきた。2013年6月の富士山の世界遺産登録後は、外国人観光客も増加している。

富士吉田市商業連合会は、1952年5月1日に9商店街の連合組織として設立された、富士吉田地域内の商業者を代表する任意の商業者団体である。